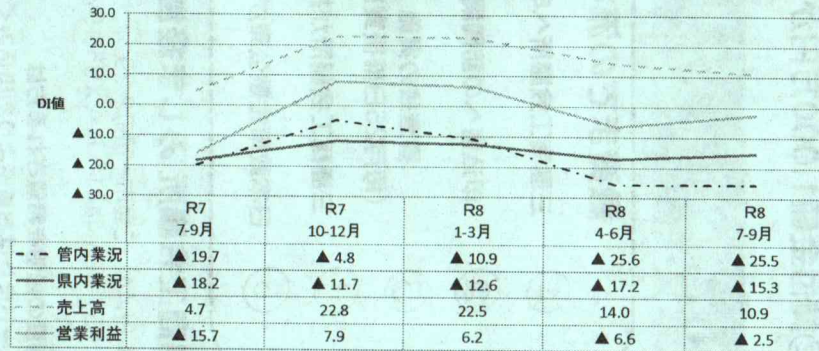


三島管内景況調査

令和8年度第2四半期
(調査期間)
令和8年7月～9月

景気判断指数 DI 値の推移



『収益悪化に一定の歯止めも、高止まりするコストと中東情勢の影響継続で業況感は停滞』

※全業種のDI値は次の通りである。カッコ内は前回DI値(令和8年4月～6月)
 □業況感DI値 ▲25.5(▲25.6) □売上高DI値 10.9(14.0) □営業利益DI値 ▲2.5(▲6.6)

今回の調査(回答社数120社)では、全体の売上高DI値が10.9(前期14.0)となり、プラス水準を維持したものの増加幅はやや縮小しました。営業利益DI値は▲2.5(前期▲6.6)とマイナス幅が縮小し、収益悪化に一部歯止めがかかる兆しが見られたものの、依然として水面下の推移が続いています。全体の業況感DI値は▲25.4(前期▲25.6)となり、依然としてマイナス水準から抜け出せず足踏み状態となっています。

業種別に見ると、売上高を伸ばすサービス業(売上高DI 34.5)や製造業(売上高DI 25.9)がある一方で、コスト増を価格に転嫁しにくい卸売・小売業(売上高DI ▲21.2、営業利益DI ▲39.4)では非常に厳しい景況感が続いており、業種間での二極化も懸念されます。

経営上の問題点では「商品・原材料仕入価格の上昇(19.6%)」が最多となり、次いで「人材不足・採用難(13.2%)」、「人件費の増加(12.1%)」、「人件費以外の経費増加(10.5%)」と続き、コスト高騰と人手不足の二重苦が経営を圧迫しています。

業種別の業況感DI値は次の通り ※カッコ内は今後の見通し
 全体▲25.5(▲27.1) 製造業▲29.6(▲44.4) 建設業▲5.6(▲5.6)
 卸売・小売業▲51.5(▲42.4) 飲食・旅館業▲30.8(▲30.8) サービス業0.0(▲3.7)

* DI 値(景気判断指数) = (増加・好転等の回答割合) - (減少・悪化等の回答割合)

景況図の見方	① 好調・好転・増加	② 好調・好転・増加	③ 横ばい	④ 不振・悪化・減少	⑤ 不振・悪化・減少

- ① 増加50%以上、DI値20%以上
- ② DI値10%～20%
- ③ 不変50%以上、DI値±10%
- ④ DI値-10%～-20%
- ⑤ 減少50%以上、DI値-20%以上

業種	売上高		資金繰り		従業員数		パートの採用		営業利益		業況		設備投資	
	前年同期比	今後3ヵ月	前年同期比	今後3ヵ月	前年同期比	今後3ヵ月	前年同期比	今後3ヵ月	前年同期比	今後3ヵ月	前年同期比	今後3ヵ月	今期実施	今後計画予定
全体													28.2%	33.9%
製造業													38.5%	46.2%
建設業													41.2%	41.2%
小売・卸売業													18.2%	18.2%
飲食・旅館業													23.1%	33.3%
サービス業													25.0%	37.0%

*この調査は、三島地区の中小企業の景況を定期的に把握し、各事業所の参考にさせていただくためのものです。左表にある項目について、「前年同期との比較」及び「今後3ヶ月の見通し」について調査し→で表しました。調査対象149事業所 回答120事業所(回収率 80.5%)